

総合的な学習の時間 “その道のプロ” へのインタビュー②

インタビュアー：みなさん、こんにちは。“その道のプロ” へのインタビュー。第2回目は、学校図書館指導員です。

こんにちは。

本日は、お忙しい中、中学生のために時間をとってくださり、ありがとうございます。
まずは、学校図書館指導員の仕事内容について教えてください。

学校図書館指導員：はい。学校図書館指導員とは、司書教諭をはじめとする学校の先生方や図書委員と連携して、学校図書館を運営する仕事です。

図書を使った授業の支援、図書の貸出・返却、館内と書架の整備、蔵書点検、新しく購入する図書の選書、市立図書館や他校との連携、などが主な業務です。

インタビュアー：ありがとうございます。

今、紹介してくださった仕事の中で、特に、中学生がイメージしにくいだろうと思われるもの、知らないだろうと思われるものについて、詳しい説明をお願いします。

学校図書館指導員：柏市では学校図書館指導員という呼び名ですが、一般的には学校司書とも呼ばれます。公共図書館の司書の仕事と大きく違うところは、授業に必要な図書をそろえて、授業を支援するということです。そのために、教科の先生方と授業の打ち合わせをします。教科書と本を照らし合わせて検討し、本を準備しますが、足りない本は他校や市立図書館から集めます。また反対に、柏の葉中の本を他校へ貸し出すこともしています。本選びも、楽しい本だけでなく、授業を深める本、知識を広げる本、中学生の今だからこそ読んでほしい本を中心に選びます。指導員の研修も多くあり、中学生へのおすすめ本や授業で役に立った本などの情報を共有しています。「学校図書館オンライン」というホームページの更新も交代で行っていて、児童生徒の皆さんに役に立つようなおすすめ本の情報を載せています。

インタビュアー：ありがとうございました。では次に、この仕事を目指したきっかけを教えてください。

学校図書館指導員：小さい頃から本が好きでしたが、初めは全く違う仕事に就きました。しかし、やっぱり本に関わる仕事がしたいと思って、30歳を過ぎてから、図書館司書の資格を取りました。そして就いた仕事が、近所の公共図書館での読書普及の仕事でした。そこで「本は子どもたちの人生を豊かにする」ことを体感し、たくさん子どもたちに本の素晴らしさを伝えたい！ と思って、学校図書館への転向を希望し、今に至ります。

インタビュアー：ありがとうございました。この仕事に就くには、どんな資格が必要ですか？

学校図書館指導員：私は、図書館司書の資格を持っています。大学や短大で、図書館情報学などの専門科目を学んで取得することができます。自治体や地域によっては、司書資格がなくても勤務できる図書館もありますが、できるなら専門科目を勉強して資格を取った方が、就職できる図書館の選択肢が増え、できる仕事の幅が広がると思います。

インタビュアー：ありがとうございます。

では、この仕事のやりがい・やって良かったと思うことと、苦勞・つらい時のことを教えてください。

学校図書館指導員：「書名も著者もわからない本を探しています。確かこんな内容で……。」という相談の本を見つけることができ、「先生、すごーい！」と喜んでもらった時や、授業で紹介した本が「普段手に取らないような本だけど、面白かった」と興味を持ってもらった時が嬉しいです。

好きなことが仕事になっているので、あまり苦勞と感ずることはありませんが、強いて言うなら、柏市立図書館の本館で授業に使う本を探していると、ついついたくさんの本を借りてしまって、駐車場までの坂道を 30 冊近い本を抱えながら登る、なんてことがよくあります。

インタビュアー：ありがとうございました。

最後に、中学生へのメッセージ・未来へのエールをお願いします。

学校図書館指導員：本を読むと、世界が広がります。視野が広がり、知識が身につけば、将来の夢や選択肢も多くなります。また、伝記を読んで、様々な人の人生に触れることで、自分の人生経験だけでは得られない多くのものが得られ、自分たちの未来をイメージすることもできるでしょう。図書館にはあらゆる分野への入り口があります。ぜひ、図書館を積極的に利用して、それぞれの未来の扉を見つけてください。学校図書館指導員はそのためにできる限りの準備をして、皆さんを待っています。

インタビュアー：本日は、お忙しい中、中学生のために時間をとってくださり、ありがとうございました。

生徒のみなさん、今回の感想を、学習・生活記録に書いておきましょう。

これで、第2回“その道のプロ” 学校図書館指導員へのインタビューを終わります。